日本形成外科手術手技学会
News Letter

第19号　2024年6月1日発行
発行 日本形成外科手術手技学会 事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12
新宿ラムダックスビル　㈱春恒社内
MAIL：jsitps@shunkosha.com

理事長からのご挨拶

―動画を中心とした学会への発展を願って-

日本形成外科手術手技学会　理事長　橋本一郎（徳島大学形成外科）

この度、日本形成外科手術手技学会の理事長を拝任いたしました。本学会は1995年に「形成外科内視鏡手術研究会」として設立され、2001年には「形成外科内視鏡・手術手技研究会」に、2007年からは内視鏡の文字がなくなり「形成外科手術手技研究会」と改名されました。そして2011年からは研究会から学会として発展させて、現在の「日本形成外科手術手技学会」と変更されました。このようにして先達が築いてきた伝統ある本学会は2025年3月には第30回の節目となる学術集会を迎えます。

言うまでもなく形成外科にとって手術手技はその根幹であります。最近の手術用ロボットや外視鏡の発達は形成外科手術手技に変革をもたらそうとしています。30年前の設立時に本学会は内視鏡手術研究会として内視鏡手術が活発に発表されていましたが、現在の手術用ロボットが内視鏡の発展型と定義されることを考えるとその関連性について興味深いものがあります。

動画教材を用いると手術手技の取得や理解が早く深くなることはご承知の通りです。本学会では日本形成外科学会の動画コンテンツ部門との連携をさらに強くしながら、映像を中心にして発展していく方向です。会員個人の、そして所属施設の素晴らしい手術手技を動画として発表していただき、手術結果の向上を通して患者によりよい医療を提供していく学会活動を目指したいと考えております。特に今後の形成外科を担う若い先生が積極的に参加していただける魅力ある学会を作りたく、みなさまのご支援とご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

第 29 回　日本形成外科手術手技学会　報告

会長　上村　哲司（佐賀大学医学部形成外科）

若葉がより深い青葉になる季節になりましたが、皆様のますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、皆様のご参加、ご協力を頂き、**2024 年 3 月 2 日（土）**に、第 29 回日本形成外科手術手技学会を**ホテルグランデはがくれ（佐賀市）**にて、開催させて頂きました。有料参加者総数は、348 名となり、当日の招待者と協賛企業等の方も含むと **440 名**の参加となり、多くの会員の皆様の現地参加を頂き、盛り上がった学会を開催することができました。参加者の皆様には心より感謝申し上げます。

佐賀県で形成外科の全国学会を開催するのは初めてのことであり、身の引き締まる思いでした。日本形成外科手術手技学会は、1995 年に形成外科内視鏡手術研究会として始まり、1996 年にその第 1 回目の研究会が開催されています。その後 2001 年に形成外科内視鏡・手術手技研究会に名称が変更され、2011 年から日本形成外科手術手技学会となり、発展してきました。元来は、名称にあるごとく形成外科領域の内視鏡手術を進める集会でしたが、その過程で内視鏡という名称が消え、現在に至っています。一方、他の外科系診療科は、低侵襲である内視鏡手術をすすめ、ロボット手術手技へと進化してきています。

第 29 回日本形成外科手術手技学会のテーマは、**〈挑戦〉映像とアートで伝える手技**　としました。

本学会の特別講演として、佐賀大学医学部一般・消化器外科の能城浩和先生に、消化器外科領域の内視鏡手術の進化系であるロボット手術の進歩と今後の展望について、そして私の臨床研修医時代の恩師である奥津一郎先生に、整形外科領域の関節外内視鏡手術の開発についての講演を賜り、われわれ形成外科医が、内視鏡・低侵襲手術を再考する機会となりました。また私が選んだ形成外科の 7 つの領域の外科手技に関して、動画を用いた＜トリセツ＞教育講演を、7 人のその領域の第 1 人者に行っていただきました。**オンデマンド対象の全ての映像は、学術集会側で日形会のビデオコンテンツに投稿を進めています。**

一般演題を２つにわけ、シェーマ付き演題と映像付き演題とし、シェーマ付き演題では発表内容の Key となるシェーマ１枚を事前に提出してもらい、**演題名とそのシェーマのみで最優秀アート演題（シェーマ部門）を決めるという試み**を行いました。当日の私の会長講演後に、小野真平 先生（日本医科大学 形成外科）の**＜ドナーに植皮を要さない逆向性指動脈島状皮弁の変法＞**を表彰させて頂きました。また映像付き演題（映像部門）は、当日の発表内容から、柳澤大輔 先生（信州大学 形成再建外科学）の**＜涙嚢鼻腔吻合術における針糸の選択の工夫＞**を学会終了後に選ばせて頂きました。

佐賀県では、２月中旬から 3 月末にかけて各酒蔵で酒蔵開きが行われており、学会当日は佐賀鹿島市の**富久千代酒蔵の＜鍋島＞を皆さんに振る舞い**、満喫していただけたことと思います。

会長として、佐賀で働いている一県民として、3 月 2 日という佐賀市内の雛祭りイベント中に、**佐賀で映像とアートと手技**をキーワードに、さまざまな企画と学会集会を開催できたことに対し喜びをもつとともに、改めて遠方から参加して頂いた皆様とご協力頂いた企業の方々にも、深く感謝申し上げます。

最後になりますが、爽やかな初夏のみぎり、皆様のますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

第30回　日本形成外科手術手技学会　お知らせ

会長　鳥山 和宏（名古屋市立大学形成外科）

この度は、第30回日本形成外科手術手技学会の開催を迎えるにあたり、皆さまに心より感謝申し上げます。今回のテーマ**「場を作ろう！」**には、術者が手術を最適に行える環境を整えるという意味が込められています。これは第27回のテーマ「層を極める」に続く、手術の基本を追求するテーマ1つです。また副題にした「難しい場をやさしくする」とは、例えば血管吻合の前に吻合しやすくする場（環境）を整え血管吻合自体をやさしくするという考えです。本学会の主旨である、手術のアイデアと工夫を持ち寄り議論する「場」を創出できればと考えております。

特別講演として､形成外科学会パイオニアのお一人で御年90歳を超える冨士森良輔先生に、熱傷後のケロイドや瘢痕拘縮の克服、特に顔面自由縁の修復についての貴重なご経験をお話しいただく予定です。この講演で、手ごわい「顔面自由縁の瘢痕拘縮」をやさしく治療する方法を学びたく存じます。また、名古屋市立大学病院で睡眠センターを立ち上げられた中山明峰先生には「Good sleep, Good life!」というテーマで、忙しい形成外科医の生活の質を高める方法についてご講演いただきます。予め睡眠について、ご質問がある先生はどうぞ事務局までメールをください。

また、過去30年間の抄録集の表紙パネルを展示し、本学会の歴史を振り返ることで、内視鏡研究会から始まり、ロボット手術を見据えた斬新な手術手技の学会へと進化した私たちの「ストーリー」を共有します。

学会のポスターは、形成外科の手技を具現化した「手術道具」をフィーチャーしたものです。形成外科医が愛用する「手術道具」に関するシンポジウムを始めてとして、ビデオ演題を中心にプログラムを組む予定です。また、ARポスターを通じて、日ごろ忙しい形成外科医を助ける*かわいいキャラクター*を紹介し、これに関連するセミナーをご用意しております。

会場はウインクあいちで、名古屋駅から徒歩5分の距離にあります。名古屋駅周辺はリニア開設に向けて大きく変わろうとしており、学会参加と合わせて名古屋の街をお楽しみいただければと思います。

最後に、シェークスピアの言葉を引用します。「この世は舞台、人はみな役者。」と申します。私どもが手術手技学会という舞台を準備します。皆さま、是非役者としてご参加いただき、本学会を盛り上げていただけますようお願い申し上げます。

第30回日本形成外科手術手技学会
会　長：鳥山 和宏　（名古屋市立大学医学部形成外科　教授）
会　期：2025年3月1日(土)
会　場：ウインクあいち（名古屋市）
テーマ：場を作ろう！～難しい場をやさしくする～
Ｈ　Ｐ：https://cs-oto3.com/jsitps2025/